

# 社会資本総合整備計画 事前評価調書

計画の名称	LRTと歩行者空間の富山駅南北接続
計画策定主体	富山市
交付対象	富山市
計画期間	平成24～28年度(5年間)
計画の目標	北陸新幹線の開業及び富山駅付近連続立体交差事業にあわせて富山駅南北の路面電車の接続や富山ライトレールの一部複線化等を行うことにより富山市北部地区と中心市街地とのアクセスの強化や公共交通の活性化を図るとともに、自由通路等を整備することにより富山駅周辺での歩行者の利便性を高める。
定量的指標 (目標値)	・路面電車市内軌道と富山ライトレールの利用者数を16,773人/日(H23)から17,600人/日(H28)へ増加させる。 ・自由通路利用者数(従前:富山駅周辺における歩行者通行量)を平日31,166人、休日23,802人(H21)から平日34,100人、休日26,700人(H28)へ増加させる。
全体事業費	5,134 百万円

項目	評価細目	評価	説明欄
目標の妥当性	1 関連する上位計画等との整合性が図られているか	○	富山市総合計画、富山市都市マスタープラン等に位置付けている計画と整合が取れている。
	2 地域の課題に適切に対応する目標となっているか	○	北陸新幹線の開業や在来線の高架化に併せて、人口減少や少子・超高齢社会に備えるための拠点集中型のコンパクトなまちづくりを拠点のひとつである富山駅周辺などの中心市街地で推進するための目標となっている。
計画の効果・効率性	1 整備計画の目標と定量的指標の整合性が確保されているか	○	整備計画の目標を定量的に図ることができる指標を設定している。
	2 定量的指標が分かりやすいものとなっているか	○	公開されている統計データや調査結果を基にした指標であり、分かりやすさに配慮した指標となっている
	3 目標と事業内容の整合性が確保されているか	○	目標達成に必要な事業を要素事業として位置付けており、整合性を確保している
	4 中間評価・事後評価時に検証可能な適切な指標となっているか	○	毎年の統計データや毎年実施している調査結果を基にした指標であり、中間・事後評価時に検証可能かつ適切な指標となっている
	5 十分な事業効果が得られる計画となっているか	○	目標達成に必要な事業を要素事業として位置付けており、事業効果が得られる計画となっている
計画の実現可能性	1 計画の熟度が高く、円滑な事業執行の環境が整っているか	○	目標達成に必要な事業を位置付けており、計画の熟度および円滑な事業執行環境は整っている
	2 地元の機運が醸成されているか	○	新幹線開業が数年後に迫り、整備イメージが報道されるなど地元」の機運が醸成されている。
評価結果	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">評価Ⅰ 事業を実施</div> 評価Ⅱ 計画の見直し	<b>【評価基準】</b> 「評価Ⅰ」は、全項目に○印が付いているもの 「評価Ⅱ」は、1項目でも×が付いているもの	